

人の医療現場で長年活用されてきた乳酸菌「ロイテリ菌」を使った リキッドタイプのサプリメントが、犬・猫用として新登場。

発売日：11月1日（木） 発売エリア：全国

2018年10月24日

オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社

オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：野津 基弘）は、犬・猫に向け生きてロイテリ菌を使用した「ロイテリ乳酸菌リキッド」を新商品として11月1日（木）に全国発売いたします。

ペットも人と同様に高齢化が進んでおり、特に近年の平均寿命の延伸は目を見張るものがあります。2017年の平均寿命は犬で14.2歳、猫で15.3歳となっています。（出所：ペットフード協会「全国犬猫飼育実態調査」）
高齢化に伴う問題として「老化、疾病の多様化」があげられています。

このたび当社が発売する犬・猫用サプリメントに含まれる「ロイテリ菌」は、世界100以上の国と地域で人の「バクテリアセラピー」に利用され、多くの症例を重ねるなかで信頼されてきた乳酸菌です。

ロイテリ菌は人をはじめ、犬、猫などの哺乳類と長年にわたり共存してきた乳酸菌です。「ロイテリン」という抗菌物質を作り出し、体内の悪玉菌を見極め、活動を抑制するはたらきがあります。お口から始まる消化管に留まりやすく、継続的に摂取することで体内の菌バランスを整えていくことが報告されています。

人において生きて腸まで届くプロバイオティクスであるのはもちろんのこと、全身の入口である「口腔内の菌バランス」を整えることから、犬、猫においても重要な役割を果たすことが期待されます。

* 成犬期、成猫期の犬、猫の60～80%が歯周病になっているといわれています。

「ロイテリ乳酸菌リキッド」は、天然のひまわり油に生きてロイテリ菌を封じ込めたリキッド形状で、嗜好性も良く、スムーズに与えて頂けるサプリメントです。

【オハヨーバイオテクノロジーズ株式会社】

日本カバヤ・オハヨーホールディングスグループの一員として、2017年4月に設立。日本人の健康寿命を延ばし、豊かな人生を実現するため「医と食のバランスを変える」という10年ビジョンを掲げ、グループの新規事業をリードしています。



商品名	ロイテリ 乳酸菌リキッド
容量	5ml（約1カ月分）
賞味期間	製造日から24ヶ月
販売地域	全国のペットショップ、動物病院
参考小売価格	3,000円（税抜）
保存方法	本品は生きて乳酸菌を使用しておりますので、冷暗所で保管してください。
原産国	スウェーデン

<与え方>

①1日に4～5滴を目安にお与えください



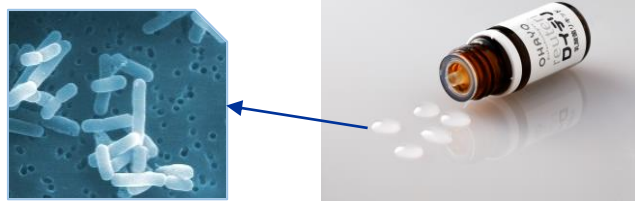
・4～5滴に生きてロイテリ菌が1億個以上含まれています
* 体格にかかわらず一日に必要な菌数

②お好みに応じてお好きな与え方をお選びください



（与え方の例）
・食事に振りかける
・直接お口のなかにたらす
・手のひらやスプーンにたらしてなめさせる

▼生きてロイテリ菌

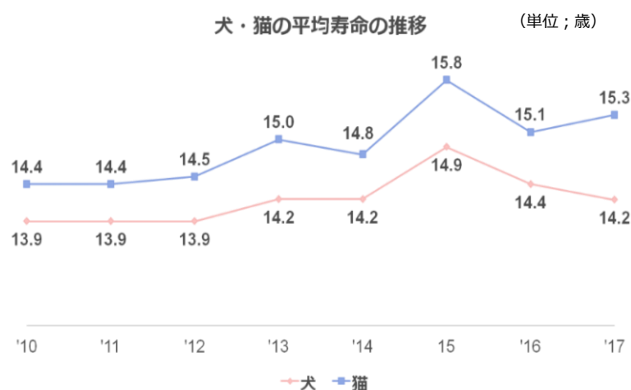


ペットの高齢化が進むなかで、「健康寿命」がますます重要に

・ペットの高齢化の現状

私たち、人の高齢化は生活水準の向上とともに進んできましたが、現在同じことがペットにも起こり始めています。2010年以降のペットの平均寿命推移を見ると、犬、猫ともに上昇傾向にあります（出所：ペットフード協会「全国犬猫飼育実態調査」）。2010年から2017年にかけて平均寿命は伸びており、犬は 0.3歳、猫は 0.9歳とそれぞれ平均寿命を延ばしています。

寿命15歳前後の犬、猫にとって、人間に換算すれば約4～5倍延びたと考えることができます。



出所：一般社団法人ペットフード協会「全国犬猫飼育実態調査」

・ペットの高度医療化と寿命の延伸

ペットの家族化、高齢化に伴い、ペットに対して人間と同レベルの診断を受けさせたいという飼い主が増えてきており、CTスキャンやMRIといった高度な医療技術が動物病院にも導入され始めています。

現状、このような高度医療技術を導入している動物病院は大規模病院に限られています。ペット保険の加入率の上昇やペットの高齢化による疾病の多様化等に起因して、高度医療に注力する病院が今後増える可能性は高くなると思われます。「高度医療」は動物医療業界でもホットなキーワードだと思われ、それが飼い主にも浸透すれば更なる長寿命化が見込まれます。

・犬、猫がかかりやすい病気

犬、猫の重篤な病気としてはガン、心臓病、腎臓病が挙げられています。また、成犬、成猫がかかりやすく、気を付けないといけな病気としては糖尿病、歯周病などがあるといわれています。

糖尿病は遺伝やストレスが原因の場合もありますが、栄養のとりすぎや運動不足が原因の場合もあります。歯周病は成犬期、成猫期の犬や猫の60%～80%が歯周病になっているといわれています。人のように十分な口腔内ケアができない犬や猫にとって、長寿になるほど「お口のお手入れ」は大きな課題となります。人に多い虫歯（う蝕）は非常にまれですが、歯周病は非常に多く、また、歯周病が原因で心臓、腎臓の疾患をはじめとして全身の病気を発症するなど様々な疾患を引き起こす可能性が高くなるといわれています。

出展

● 一般社団法人ペットフード協会

<https://petfood.or.jp/>

● 日本動物高度医療センター

<https://www.jarmec.jp/information/cardiology.html#cardiology>

● PETOKOTO

<https://petokoto.com/>

ロイテリ菌の特徴と効能 ご紹介（*ヒトでの特徴と効能）

ロイテリ菌は、その効能、エビデンスの多さから「スーパー乳酸菌」とも呼ばれ、医療現場をはじめとして世界中で注目を集めています。ここでは、日本ではあまり知られていないロイテリ菌の特徴と効能の一部をご紹介します。

ロイテリ菌の特徴

もともとは多くのヒトの体内にすみ着いていた

ロイテリ菌は元来、母乳を通じて多くのヒトの体内に定着していましたが、投薬治療や食品添加物等、現代に至るまでのライフスタイルの変化により、失われてきてしまったといわれています。



体内菌をコントロールする「細菌の指揮者」

ロイテリ菌は、抗菌物質を産生して悪玉菌を抑え、善玉菌を活性化します。まさに指揮者として体内の菌バランスをコントロールし、私たちを健やかな毎日に導きます。

ロイテリ菌のはたらき

有害な菌に対して

ロイテリンという物質を作り出し有害な菌の発育を抑えます。

有益な菌に対して

ダメージを与えず、有益な菌を増加させます。



圧倒的な実績・科学的根拠が揃っている

ロイテリ菌は、ノーベル生理学・医学賞の選定機関としても有名な、スウェーデンのカロリンスカ医科大学で90年代から研究が続けられてきました。

科学論文146件、博士論文13件、被験者14,700名以上と、数ある乳酸菌の中でも圧倒的な臨床実験実績を誇り、世界で約100の国と地域で採用されています。その症例の領域は、口腔内をはじめ、胃腸性疾患、免疫・アレルギーなど多岐に渡ります。



ロイテリ菌の機能・効能

口腔内、腸管表面への付着能力が高く、生きて腸まで届く

ロイテリ菌は、元来ヒトのカラダに存在していたため、胃酸や胆汁に負けず、体内で生きる力が強い乳酸菌です。

また、消化管に定着しやすく、バクテリアセラピーによる継続的な効果が得られやすいといわれています。



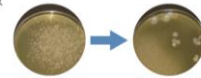
抗菌物質を産生する希少な乳酸菌

ロイテリ菌は、「ロイテリン」という天然の抗菌物質をつくります。この「ロイテリン」によって、口腔内では歯周病菌や歯垢、口臭の原因菌等を抑制し、胃では胃酸抑制剤との併用でピロリ菌の除菌にも成功したと、報告されています。

ロイテリ菌が歯周病を予防し歯周病治療が革新的に進歩する

5種類の歯周病菌を抑制することを確認。

- ポルフィロモナス・ジンジバリス
- アクチノバクテリウム・イソヘムリス
- アクチノバクテリウム・アクチノマイセテム・コロニカンス
- フリバクテリウム・ヌクレアタム
- プレオボタ・ニグレンシス



歯周病に効果的な薬物治療
（2017年発表）
Hedberg M et al. Antimicrob (2017)

ヒト免疫システムに働きかける

ロイテリ菌は小腸において、免疫システムに欠かせないCD4陽性Tリンパ球を増加させたり、炎症性サイトカインを調整する機能があることが臨床実験のなかで明らかになっています。このように、免疫システムに働きかけ、免疫低下によって引き起こされるさまざまな病気のリスクを低減が期待できます。



※「ロイテリ菌研究所」サイトでは、ロイテリ菌の具体的な症例や医師のコラム等をご紹介します。（<http://ohayo-bio-reuteri.com/>）